

優秀賞

京都府子ども議員になって

京都府 木津川市立城山台小学校五年 山川輝良里

この夏は参議院選挙が行われた。私は政策や選挙について知る中で、政治は日常生活と密接に関わっていることが分かり、深い興味を持った。

そこで私は議会の疑似体験ができる「京都府子ども議会」に参加させて頂いた。これは小学生が「一日議員」となって、子ども目線で気付いた質問や政策提案を議会で行うというものだ。私は身の周りで起こっている問題について調べ学習をした。防災や犯罪の問題、環境問題、伝統産業など、調べれば調べるほど多くの課題があることに気付く。しかし、それは私にとって新しい発見であり、とても楽しいことだった。疑問点として考えたことが、次の課題を生み出し、それを解決できるような糸口を見つけていく。

自分で調べて考えたことを議会で提案するまでに、何度か同じ仲間の子ども議員たちと話し合った。色々な地域の小学生と出会い、みんな同じように考

え、自分達の地域をより良くしようと取り組んでいることに感動した。個性的でユニークなアイデアは私の未知の世界を開拓してくれているようで、目の前の景色が大きく変わるのを感じた。自分の価値観の中だけで生きていた私の視野がさらに広がる。話し合うことが私を一段と成長させてくれることに気付いた。

そして、迎えた本会議当日、初めて入った議場の空間は、私にはとても広く深く感じられ、オレンジ色に照らされた電気はまぶしく輝いていた。その空気は、真夏の京都の蒸し暑さと子ども議員たちの意気込みで熱気に満ちあふれていた。私は自分の意見を発表できる嬉しさとその思いがしっかり伝わるのかという一抹の不安で気持ちが交差していた。演壇の前に立つ私は不思議なほどに落ち着いていた。そして、みんなに意見が届くように大きな声で発表する。目の前の大人の議員の方達はずなずいて笑顔

で聞いて下さっていた。子ども意見にも耳を傾け、真剣な眼差しで答弁して下さる姿を見て、私は心の中が温かくなるのを感じた。家族や学校の先生だけでなく、周りの人たちからも見守られ、育てられていることに気付く。

私はとても貴重な体験をさせてもらった。行政や議会の仕組みを身近に感じる事ができ、市政や地域への関心がより深まった。小学生でも社会の一員として受け入れられていることが分かり、大きな安心感に包まれた。

私には何かを変えようとする力はまだ無い。しかし、自分にできることはきつとあるはずだ。まず、周りの人達の話聞いて、一人一人の意見を尊重したい。対話を通じて異なる意見を聞くことで新たな価値観が生まれることが分かったからだ。そして、学校でも困ったり悩んだりしている人がいれば迷わず声をかけ、その人の気持ちに寄り添いながら一緒に解決できる方法を考えたい。その上で、日本のこと、地域社会のことを深く学び、いつか社会に貢献できる人間になりたいと思う。

